

平成16年度財団法人国際エメックスセンター事業報告書

1 一般事項

(1) 理事会の開催

ア 第11回理事会

開催年月日 平成16年6月4日(金)

開催場所 兵庫県公館 第2会議室

議案等

・議案

議案第1号 平成15年度事業報告に関する件

議案第2号 平成15年度収支決算報告に関する件

・報告事項

報告第1号 監事の補欠選任について

報告第2号 評議員の就任状況について

イ 第12回理事会

開催年月日 平成17年3月28日(月)

開催場所 兵庫県公館 第2会議室

議案等

・議案

議案第1号 平成16年度事業計画書の変更に関する件

議案第2号 平成16年度収支予算書の変更に関する件

議案第3号 平成17年度事業計画(案)に関する件

議案第4号 平成17年度収支予算(案)に関する件

議案第5号 評議員の補欠選任に関する件

議案第6号 科学・政策委員会委員の選任に関する件

議案第7号 国際エメックスセンター役員給与規程の一部改正に関する件

・報告事項

報告第1号 監事の補欠選任について

報告第2号 第7回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMEC S7)について

(2) 評議員会の開催

ア 第10回評議員会

開催年月日 平成16年6月4日(金)

開催場所 兵庫県公館 第2会議室

議案等

・議案

議案第1号 平成15年度事業報告に関する件

議案第2号 平成15年度収支決算報告に関する件

議案第3号 監事の補欠選任に関する件

イ 第11回評議員会

開催年月日 平成17年3月28日(月)

開催場所 兵庫県公館 第2会議室

議案等

・議案

議案第1号 平成16年度事業計画書の変更に関する件

- 議案第2号 平成16年度収支予算書の変更に関する件
- 議案第3号 平成17年度事業計画(案)に関する件
- 議案第4号 平成17年度収支予算(案)に関する件
- 議案第5号 監事の補欠選任に関する件

・報告事項

- 報告第1号 科学・政策委員会委員の選任について
- 報告第2号 第7回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMEC S7)について

(3) 第6回科学・政策委員会の開催

- 開催年月日 平成16年11月12日(金)
- 開催場所 ホテル・ニューオータニ神戸ハーバーランド
- 議題
 - 第7回エメックス会議(EMEC S7)について
 - 第8回エメックス会議について
 - 科学・政策委員会委員の追加候補者について
- 報告事項
 - 第6回EMEC S会議の論文集発行について
 - 第2回IAG(国際地形学協会)長江会議EMEC S/NIESセッションについて
 - 第7回MEDCOAST会議について

2 事業の実施

(1) 閉鎖性海域環境保全推進事業

ア 湾奥部における環境創造方策に関する調査研究

大阪湾奥部など湾奥部は、古くから生産活動の用に供するために、海面の埋立が様々に進められてきた。この埋立により、水質や底質の悪化、生物の生息環境の悪化等の環境変化が生じてきた。このような湾奥部の環境の再生をめざし、尼崎港に設置している人工干潟等を研究者等との共同研究の場として活用を図った。このため、当該施設の管理を行うとともに、大阪府立大学と共同で湾奥部における環境創造方策に関する調査研究を行った。

テーマ：環境修復技術の組合せによる相互補完効果に関する研究

イ 油処理剤等環境影響に関する調査(環境省地球環境局委託事業)

大規模な油流出事故等においては、迅速な回収処理作業が被害の拡大を防止する上で重要となるとともに、油処理剤等が大きな役割を果たすことが想定される。一方、油処理剤等の使用に関して環境への影響が憂慮されることから、これまで「油処理剤等の適正使用について広く国民と共有しうる情報の整理及び提供」を目的として各種調査を行ってきた。しかしながら、油と油処理剤の混合物(以下、「処理剤混合油」という。)の毒性に関する情報や海域での挙動に関する情報等油処理剤等の適正使用のため判断材料としてはまだ不足する情報があることも判明した。

そのため、学識経験者による委員会を設置し、今後の処理剤混合油の毒性に関する情報集積のための毒性試験方法の検討を行うとともに、処理剤混合油の環境水中の拡散挙動に関する知見の収集を行った。

平成16年度油処理剤等環境影響に関する調査検討会

調査検討会委員等

・委員

座長	岡田 光正	広島大学大学院工学研究科長・工学部長
委員	小倉 秀	独立行政法人海上災害防止センター調査研究室長兼防災

		訓練所所長
委員	越川 篤志	石油連盟基盤整備・油濁対策部油濁対策室長
委員	小松 輝久	東京大学海洋研究所助教授
委員	小山 次朗	鹿児島大学水産学部海洋資源環境教育研究センター教授
委員	牧 秀明	独立行政法人国立環境研究所流域圏環境管理研究プロジェクト海域環境管理研究チーム研究員
委員	茂木 幹基	海上保安試験研究センター化学分析課専門官
委員	若林 明子	淑徳大学国際コミュニケーション学部教授

・オブザーバー

国土交通省総合政策局環境・海洋課海洋室
 国土交通省海事局検査測度課業務第一係
 海上保安庁警備救難部環境防災課企画係
 水産庁資源生産推進部漁場資源課漁場保全指導班
 流出油処理剤懇話会
 粉末油ゲル化剤懇話会
 財団法人漁場油濁被害救済基金
 全国漁業協同組合連合会

調査検討委員会の開催

a 第1回検討会

開催年月日 平成16年12月7日(火)
 開催場所 東京国際フォーラムG404会議室
 検討内容

- ・検討会の構成と座長の選出について
- ・油処理剤等環境影響に関する検討調査 調査計画案について
- ・「処理剤混合油の毒性把握」と「処理剤混合油の拡散・分布状況」に関する知見収集結果
- ・その他

b 第2回検討会

開催年月日 平成17年3月29日(火)
 開催場所 法曹会館 孔雀の間
 検討内容

- ・第1回検討会において指摘された項目とその対応について
- ・油処理剤等環境影響に関する検討調査の今後の進め方について
- ・「処理剤混合油の毒性把握」と「処理剤混合油の拡散・分布状況」に関する知見収集結果
- ・その他

ウ 御前浜水環境再生調査事業(兵庫県阪神南県民局委託)

大阪湾の阪神間において数少ない自然の砂浜があり、ウォータースポーツや散策など市民の憩いの場となっている兵庫県西宮市御前浜は、周囲を埋立地に囲まれた閉鎖性海域であり、水環境の悪化が進み、生物の生息しにくい場所となっている。下水道の普及等によりこの海域に流入する河川の水質が改善され、御前浜の水質も良くなってきているが、まだまだ十分ではない。この御前浜の水環境を再生するため、兵庫県阪神南県民局は、人々が水に親しみ、憩える御前浜をめざし平成15年度に「御前浜水環境再生検討委員会」を設置して検討を行った。平成16年度は、この検討結果を基に、御前浜の水環境再生のための長期的に渡る実証事業の実施のための検討等を行うこととした。

このため、兵庫県阪神南県民局の委託を受け、専門家委員会を設置し、御前浜水環境再生実証事業の具体的方法を検討するとともに、市民の参画と協働が得られるよう気運の醸成を

図るためフォーラム等の啓発事業を実施した。また、阪神南県民局が設置し、学識経験者や市民が参加する「御前浜環境再生会議」への資料作成等の業務を行った。

委員会等の開催状況及び検討のあらまはは次のとおりである。

御前浜水環境再生実証事業専門家委員会

委員

委員長	上嶋 英機	独立行政法人産業技術総合研究所中国センター産官学連携部門研究コーディネーター
委員	川井 浩史	神戸大学内海域環境教育研究センター長
委員	上月 康則	徳島大学大学院工学研究科助教授
委員	中辻 啓二	大阪大学大学院工学研究科教授
委員	鷲尾 圭司	京都精華大学人文学部教授

委員会開催状況

a 第1回委員会

開催年月日 平成16年10月7日(木)

開催場所 国際健康開発センタービル

検討内容

- ・第1回御前浜環境再生会議及び専門家委員会の概要について
- ・水環境再生の方針と技術的手法について
- ・御前浜水環境再生実証事業のあり方について

b 第2回委員会

開催年月日 平成17年2月1日(火)

開催場所 国際健康開発センタービル

検討内容

- ・御前浜水環境再生実証事業の計画・設計について
現地調査結果
土砂利用可能性調査結果
浅場設計の考え方
モニタリング計画

御前浜ワークショップ「御前浜 みんなの浜辺調査」

開催年月日 平成16年10月24日(日)

開催場所 兵庫県立海洋体育館研修室及び御前浜一帯

テーマ 御前浜の生物をみて海の環境を考えてみよう!

指導 上月康則(徳島大学工学部助教授)

参加者数 約40名

概要

- ・班ごとの浜辺での生き物調査
- ・生き物マップの作成
- ・まとめの報告と講評

御前浜(香櫨園浜)水環境再生市民フォーラム「とりくもう水環境の再生」

開催年月日 平成17年3月12日(土)

開催場所 西宮市民会館 大会議室

参加者数 約70名

概要

- ・基調講演

「御前浜の水環境の現状と再生の可能性」

川井浩史 神戸大学内海域環境教育研究センター長

- ・御前浜環境再生会議からの報告
 - 「御前浜の水環境の再生に向けて」
 - 御前浜環境再生会議事務局
- ・パネル討論
 - 「御前浜の水環境を保全するための市民活動」
 - 司会進行 川井浩史 神戸大学内海域環境教育研究センター長
 - パネリスト 近藤浩文 西宮自然保護協会会長
 - 上月康則 徳島大学大学院工学研究科助教授
 - 諏訪禎男 (株)ウインドワード代表取締役
 - 大谷洋子 芦屋市民
 - 広岡 隆 西宮市民

御前浜環境再生会議（兵庫県阪神南県民局設置）

委員

公募委員	今井 一郎	浜脇地区自治連合会会長
公募委員	浜田見剛一	西宮浜をきれいにする会代表・泳げる海をとりもどす会代表
公募委員	多田 準二	芦屋市東南自治会副会長
公募委員	中村 啓佑	芦屋ハイタウン自治会会長
公募委員	二見 治子	夙川の環境をよくする会会長
公募委員	山下 實	香炉園浜を美しくする会代表
公募委員	米山 清美	浜脇校区子ども会連絡協議会会長
地元有識者	大谷 洋子	阪神貝類懇話会会員
地元有識者 (副委員長)	近藤 浩文	西宮自然保護協会会長
地元有識者	諏訪 禎男	NPO 兵庫県の水域の秩序ある利用を進める会副理事長
学識経験者 (委員長)	角野 幸博	武庫川女子大学生生活環境部教授
学識経験者	川井 浩史	神戸大学内海域環境教育研究センター長
学識経験者	上月 康則	徳島大学大学院工学研究科助教授
学識経験者	花田 佳明	神戸芸術工科大学環境デザイン学科教授

会議開催状況

- a 第1回会議
 - 平成16年8月9日(月)
 - 検討内容
 - ・御前浜の水環境再生に向けて 他
- b 第2回会議
 - 平成16年11月15日(月)
 - 検討内容
 - ・御前浜水環境の再生方策 他
- c 第3回会議
 - 平成17年2月15日(火)
 - 検討内容
 - ・御前浜環境再生会議報告書(案)水環境編について 他

「御前浜環境再生会議報告書 水環境編」の構成

- 御前浜の現状
- 水環境再生の目標
- 水環境再生技術の検討

水環境再生実証実験施設

- ・位置の選定
- ・浅場の設計
- モニタリング
- 今後の進め方

エ 第7回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS7）開催準備

第7回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS7）は、平成18年5月にフランス・カーン市で開催することとしている。この会議の成功に向けて、現地に国際組織委員会及びその事務局が設置された。関係機関と協議するとともに、国際組織委員会を支援し、インターネット等により会議開催の周知を図った。

第7回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS7）の概要

テーマ 「閉鎖性海域の持続可能な共同発展：私達の共有責任」（仮訳）

開催期間 2006年5月9日（火）～12日（金）

開催場所 フランス バス・ノルマンディ州 カルバドス県 カーン市
カーン・エキスポコンgresセンター

主催・共催団体等

- ・主催：GEMEL（フランス河口・沿岸域環境研究学会）
ECSA（河口域・沿岸科学学会）
財団法人国際エメックスセンター
- ・共催：カーン大学、バス・ノルマンディ州、カルバドス県、カーン市
- ・支援：国連環境計画（UNEP）、ユネスコ（UNESCO）、
経済協力開発機構（OECD）、MEDCOAST（地中海沿岸国際会議）、
その他関係団体、民間企業
- ・事務局：GEREL（河口域沿岸資源環境保全協会）

分科会テーマ

- 1) 沿岸海洋科学における近年の進歩
- 2) 生態系の特質：コンセプトとケーススタディ
- 3) 沿岸域管理における新しいコンセプトと新たな経験
- 4) 協働と地域社会からの参画 - 環境問題への継続的な取り組みと啓蒙
- 5) ネットワークと21世紀における教育 - コミュニケーションの挑戦

全体会議セッション

欧州の沿岸海域

特別分科会：

- 1) アジア太平洋沿岸セッション
- 2) 環境教育交流セッション

日 程

- | | | |
|----------|---------|-------------------------------------|
| 5月9日(火) | (午前) | 開会式、基調講演 |
| | (午後) | 全体会議セッション、口頭発表、ポスターセッション |
| | (夕刻) | 歓迎レセプション |
| 5月10日(水) | (午前・午後) | 口頭発表 |
| | (午前) | アジア太平洋沿岸セッション |
| 5月11日(木) | (午前・午後) | 環境教育セッション |
| | (午前・午後) | 口頭発表 |
| 5月12日(金) | (午前) | 口頭発表 |
| | (午後) | 閉会セッション（EMECS 宣言、表彰状授与、次回開催地発表、閉会式） |
| | (夕刻) | さよならパーティ |

会議実行組織

(1) 国際組織委員会

ニコル・ラクエラー（委員長）	カーン大学学長
茅 陽一	財団法人国際エメックスセンター会長
ベルナル・シルボン	仏GEREL会長（河口域沿岸資源環境保全協会）
ジャン・ポール・デュクロトワ	仏GEMEL（仏河口・沿岸域環境研究学会）理事/英ハル大学名誉教授
マイク・エリオット	ECSA（河口域・沿岸科学学会）/英ハル大学教授
ウェイン・ベル	米国ワシントン大学環境科学センター所長・教授
エルダール・オーザン	MEDCOAST会長・トルコ・ムーラ大学教授
熊本信夫	北海学園大学学長（財団法人国際エメックスセンター科学・政策委員会委員長）
ローレンツ・ローレンツェン	経済協力開発機構（OECD）環境局長
イヴィツァ・トゥルンビッチ	国連環境計画（UNEP）PAP/RACセンター所長
フレッド・ブッチョルズ	独AW研究所ヘイゴランド海洋実験所教授
スチュアート・エバンス	英ニューキャッスル大学ダブ海洋研究所教授

(2) プログラム部会

ジャン・ポール・デュクロトワ（部会長）	仏GEMEL（仏河口・沿岸域環境研究学会）理事/英ハル大学名誉教授
ベルナル・シルボン	仏GEREL会長（河口域沿岸資源環境保全協会）
イザベル・ラス	仏GEMEL（仏河口・沿岸域環境研究学会）
渡辺正孝	独立行政法人国立環境研究所水圏環境領域長
柳 哲雄	九州大学応用化学研究所教授
エルダール・オーザン	MEDCOAST会長/トルコ・ムーラ大学工学部長・教授
ウェイン・ベル	米ワシントン大学環境科学センター所長・教授
ディビッド・キャロル	米ボルチモア郡環境保護資源保全局長
ベン・ヤンソン	スウェーデン・ストックホルム大学名誉教授

オ 第6回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS2003）報告書作成事業（日本郵政公社 - 寄附金付年賀はがきの寄附金 - 助成事業）

第6回世界閉鎖性海域環境保全会議の結果を受けて、さらなる閉鎖性海域の環境の保全と適正な利用の推進を図るなど、その成果を広く発信するため、第6回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS2003）の開催結果報告書を作成し、関係者等に配付するとともにエメックス会議のPR等を行った。

カ 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議フォローアップ事業

EMECS 2001において採択された神戸・淡路宣言で提案された課題及び得られた成果を持続的に発展させていくため、そのフォローアップとして次の事業を推進した。

閉鎖性海域における環境対策やモニタリング等について、兵庫県と共同してブラジル・パラナ州との環境協力を推進するため、兵庫県・ブラジル連邦共和国パラナ州が主催した「都市と沿岸域の環境保全国際シンポジウム」に共催するとともに、国際エメックスセンター科学・政策委員が出席し、沿岸域環境の保全と再生について、各種講演等を行った。

「都市と沿岸域の環境保全国際シンポジウム」の概要

開催年月日 平成16年11月11日（木）
 開催場所 JICA兵庫国際センター
 参加者数 約90名

内 容

1)全体会議

- ・議 長：松田 治* 広島大学名誉教授
- ・基調講演：内藤正明 NPO法人循環共生社会システム研究所代表
- ・基調報告：Mr. Paulo Tetuo Yamamoto クリチバ市都市計画公社
細川恭史* 国土交通省国土技術政策総合研究所沿岸海洋研究部長

2) 都市分科会：都市再生と地域開発

- ・座 長：中瀬 勲 兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授
- ・報 告：Mr. Rubens Fava 環境自由大学
Mr. Alexandre Akira Takamatsu パラナ技術研究所
高野 裕 兵庫県県土整備部 21世紀の森担当課長
服部圭郎 明治学院大学経済学部専任講師

3) 沿岸域分科会：沿岸域管理システムと地域開発

- ・座 長：川井浩史* 神戸大学内海域環境教育研究センター長
- ・報 告：イヴィツァ・トゥルンビッチ* 国連環境計画地中海行動計画・優
先行動計画地域活動センター所長
エルダール・オーザン* MEDCOAST 会長/ムーラ大学工学部
長・教授
Dr. Eduardo Marone パラナ国立大学海洋研究所
Ms. Madalena Tomi Shirata パラナカソリック大学
田中英機 財団法人ひょうご環境創造協会

4)総括討議：熊本信夫* 北海学園大学学長

(注)*印は、国際エメックスセンター科学・政策委員

アジアフォーラムで提案されたアジア沿岸域の総合アセスメントの実現に向けて、「アジア太平洋沿岸域環境白書作成のための運営委員会 (Steering Committee)」を開催し、白書の構成、主要執筆者の選定等を行った。

アジア太平洋沿岸域環境白書作成のための運営委員会

a 運営委員

座長	三村 信夫	茨城大学広域水圏環境科学教育センター教授
委員	柳 哲雄	九州大学応用力学研究所教授
委員	斉藤 文紀	独立行政法人産業技術総合研究所海洋資源環境研究部門沿岸環境保全研究グループ
委員	関口 秀夫	三重大学生物資源学部教授
委員	平井 幸弘	専修大学文学部人文学部教授
委員	山村 尊房	アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)センター長
委員	Kwangwoo Cho	韓国環境研究所
委員	Porfirio M. Alino	フィリピン大学海洋研究所副所長
委員	Sanit Aksornkoae	タイ環境研究所所長
委員	敷田 麻実	金沢工業大学情報フロンティア学部教授
委員	山尾 政博	広島大学大学院生物圏科学研究科教授

b 第3回委員会の開催

開催年月日	平成17年1月14日(金)
開催場所	国際健康開発センタービル国際交流ホール
内 容	・経過について ・発行計画について ・執筆者の選定について ・原稿作成について

- ・今後のスケジュールについて
- ・その他

NGOフォーラムで得られた成果を将来に引き継ぎ、発展させていくために、閉鎖性海域において環境保全活動を行う住民団体、NGOなどの国内的、国際的な交流の推進及び行政・企業・研究者らとの連携を図ることを目的として、広範なネットワークとパートナーシップを構築するフォーラムを開催した。(地球環境基金助成事業)

フォーラムの概要等

a 東京湾

開催年月日 平成17年2月13日(日)

開催場所 東京都品川区 船の科学館オーロラホール

テーマ エメックス東京湾フォーラム「東京湾の近未来図を描く～東京湾再生への市民参加に向けて～」

参加者数 約150名

内容

- ・講演「東京湾のこれまでの環境の変化と市民参加」

(趣旨説明もかねて)

清野聡子(東京大学大学院総合文化研究科)

- ・ワークショップ「こうしたい東京湾! 再生ビジョン」

コメンテーター 渡辺日佐夫(内閣官房都市再生本部事務局次長)

コーディネーター 敷田 麻実(金沢工業大学情報フロンティア学部教授)

発表

- 1) 東京湾における水質保全対策
繁本 護(環境省水環境部閉鎖性海域対策室室長補佐)
- 2) 汽水域における河川環境の捉え方について
藤巻浩之(国土交通省河川局河川環境課課長補佐)
- 3) 「豊かな東京湾を再生するための事業」について
高山章一(水産庁増殖推進部漁場資源課課長補佐)
- 4) 東京港のめざす環境づくり
石山明久(東京都港湾局港湾整備部計画課課長)
- 5) 運河を美しくする会
田中裕一(運河を美しくする会)
- 6) 三番瀬における再生への取り組みについて
北田博雄(千葉県総合企画部企画調整課三番瀬再生推進室主幹)
- 7) 地域主体による魅力ある海岸づくり
鷗山克己(千葉県県土整備部港湾課企画調整室副主幹)
- 8) 海にも畑が必要だ
三瓶雅延(沖ノ島サンゴを見守る会)
- 9) めぐりへ
金萬智男(盤州里海の会)
- 10) 谷津干潟のレンジャーがやっていること、感じていること、これからやりたいこと
～都市に残された干潟の役割、干潟と人のネットワークづくり～
芝原達也(日本野鳥の会)
- 11) 横浜港の今後に向けて ～港湾計画と自然再生・水質浄化～
下村 直(横浜市港湾局港湾整備部次長)
- 12) 東京湾再生への市民参加～横浜での取り組み
諏訪部英俊(海をつくる会)
- 13) 横須賀港港湾環境計画の策定について
本多和彦(横須賀市港湾部港湾企画課主査)

- 14) 「よこすか海の市民会議」の活動
渡辺 彰(よこすか海の市民会議)
 - 15) 今、川崎の海では
安元 順(かわさき・海の市民会議)
 - 16) 音の体験・表現型環境学習ワークショップ
川越誠一、八木文香(SAVE21実行委員会)
- ・全体討論
 - ・総合司会 小島あずさ(クリーンアップ全国事務局)
木村 尚(NPO法人 海辺つくり研究会)

b 伊勢・三河湾

環境NGO、研究者、市民等のパートナーシップによる取り組みとして「海
健康診断 - 伊勢・三河湾ひんさんそ大調査」を実施するとともに、この事業の中
にかかわった環境NGOの人々や研究者等が市民レベルで集まった「(仮)伊勢・三
河湾フォーラム」と共催で交流学習会を開催した。この動きがさらに発展し、「(仮)
伊勢・三河湾フォーラム」は平成17年1月23日には「伊勢・三河湾流域ネッ
トワーク」として正式発足した。

1) 「海健康診断 - 伊勢・三河湾ひんさんそ大調査」

実施日時 平成16年8月28日(土)午後4時~午後6時
参加者数 約110名
内 容 伊勢・三河湾に流入する河川の最下流等での水質等の測定
調査地点:約100箇所
項 目:溶存酸素(簡易測定)、透視度、水温、色

2) 交流学習会「集まれ!海の人、山の人、まちの人 伊勢・三河湾再生!!~ 想
いと知恵の交感広場~」

開催年月日 平成16年9月23日(木)
開催場所 名古屋市 名古屋港ポートビル
参加者数 約140名
内 容
・経過説明 辻 淳夫(NPO法人藤前干潟を守る会)
・講 演
アサザ・プロジェクトの市民型自然再生・地域再生
飯島 博(霞ヶ浦アサザプロジェクト代表)
学びのシステム地域創造のサーキットモデル
敷田麻実(金沢工業大学情報フロンティア学部教授)
活動見本市(ポスターセッション)

c 瀬戸内海

開催年月日 平成17年3月6日(日)
開催場所 神戸市 ラッセホール
テ ー マ エメックスNGOフォーラム in 神戸
「海環境保全への市民参加、求められているものは?」
参加者数 約60名
内 容
・経過報告 「EMECS2001NGOフォーラムからの取り組み報告」
財団法人国際エメックスセンター事務局
・講 演 「日本の海環境保全と自然・地域再生への市民参加の新たな展開」
清野聡子(東京大学大学院総合文化研究科)

・パブリックフォーラム

コーディネーター 高山 進（三重大学生物資源学部教授）

発表

- 1) 水辺に遊ぶ会が目指したい、市民参加型「海と浜の環境保全」
足利由紀子氏(水辺に遊ぶ会代表)
- 2) 海の公園づくり
安元 順氏（かわさき・海の市民会議事務局次長）
- 3) ゴミ埋立断念から6年、藤前干潟の新しい出発
辻 淳夫氏（特定非営利活動法人藤前干潟を守る会理事長）
- 4) 英虞湾の環境再生 - 地域の取り組みと住民の活動 -
松田 治氏（広島大学名誉教授）
- 5) 伊勢・三河湾流域ネットワーク - これまでの経過と設立趣旨 -
高山 進氏（三重大学教授、伊勢・三河湾流域ネットワーク代表世話人）
- 6) 海の環境保全と市民参加～調べるゴミ拾いの事例から～
小島あずさ氏（クリーンアップ全国事務局（J E A N）代表）
- 7) 海底ゴミの処理体制確立に向けた取り組み
塩飽敏史氏（財団法人水島地域環境再生財団研究員）
- 8) 今、なぜ「瀬戸内法改正か」 - 脱埋め立て宣言・生態系の回復をめざして -
阿部悦子氏（環瀬戸内海会議代表）
- 9) 瀬戸内海の環境保全と住民参加
小沢秀造氏（瀬戸内の環境を守る連絡会事務局長）

・全体討議（発表者、会場参加者を含めた質疑応答と討議）

キ 閉鎖性海域環境保全活動支援事業

閉鎖性海域の環境の保全と適正利用を目的とする学術的な会議等に対して、他の関連機関との関係を築くとともに、会議等の成果をセンターの活動に反映させるため、助成を行った。

平成16年度に助成した事業

対象団体名 瀬戸内海研究会議

対象事業名 瀬戸内海研究フォーラム in 京都

開催年月日 平成16年9月7日（火）～8日（水）

開催場所 京都市国際交流会館

テーマ 水環境保全と文化

内容

セッション概要

- ・第1セッション 京都の文化と瀬戸内海
- ・第2セッション 水環境保全と文化に関する研究報告
- ・第3セッション 海の環境と再生
- ・第4セッション 琵琶湖 - 淀川 - 大阪湾での新たな水環境保全の視点と課題
- ・総合討論 水環境管理と文化の新たな係わり

ポスターセッション

ク 第2回IAG長江会議 EMECS / NIES セッションの開催

平成16年6月中国上海市で、IAG（国際地形学協会）、華東師範大学（中国）等の主催で開催された「第2回揚子江会議」において、河川流域が河口域へ与える環境影響等に関するセッションを EMECS / NIES セッションとして関係機関と共同で開催した。

今回のセッションは、当センターの科学・政策委員会委員である渡辺正孝・国立環境研究所領域長及び陳中原・華東師範大学（中国）教授の企画運営により開催された。

当該セッションのプログラム等は次のとおりである。

（注）NIES：独立行政法人国立環境研究所（日本）

開催年月日 平成16年6月27日(日)
開催場所 中華人民共和国上海市 華東師範大学
テーマ 河川流域から河口域へ：プロセスと管理
参加者数 約70名

プログラム

基調講演

座長：斉藤文紀(独立行政法人産業技術総合研究所)

Joseph Hun-wei Lee(香港大学)

講演：熊本信夫(北海学園大学、国際エメックスセンター科学・政策委員会委員長)

渡辺正孝(国立環境研究所、国際エメックスセンター科学・政策委員会委員)

Kinga Krauze(ポーランド科学アカデミー国際生態学センター)

Joseph Hun-wei Lee(香港大学)

Hi-Il Yi(韓国海洋研究院)

Ying Wu(華東師範大学)

一般発表

座長：Hi-Il Yi(韓国海洋研究院)

発表：Kaiqin Xu(国立環境研究所)

Zhu Jianrong(華東師範大学)

Tran Duc Thanh(ベトナム ハイフォン海洋学研究所)

(2) 情報収集整備活用事業

ア 閉鎖性海域環境情報システムの構築(環境省水環境部請負事業)

閉鎖性海域の環境情報に係る国際的な情報ネットワークを構築し、閉鎖性海域に関する各研究分野の研究成果、水質等の環境データ、社会経済データ等の情報をインターネットを通じて、研究者、行政関係者等が活用できるシステムの構築を図るため、平成13年度に内容の検討を行い、平成14年度にクリアリングハウス方式のシステム構築を図り、試験的運用を開始した。このシステムの改良等を図るため平成15年度に引き続き「平成16年度閉鎖性海域環境情報整備等検討委員会」を設置し検討を行い、整備データの充実を行った。

平成16年度閉鎖性海域環境情報整備等検討委員会

検討委員会委員

座長 柳 哲雄 九州大学応用力学研究所教授

委員 浅野 能昭 財団法人地球環境戦略研究所(IGES)上席研究員 淡水資源管理プロジェクトサブリーダー

委員 高山 進 三重大学生物資源学部教授

委員 山村 尊房 アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)センター長

委員 三村 信男 茨城大学学長特別補佐

検討委員会の開催

a 第1回委員会

開催年月日 平成16年12月16日(木)

開催場所 東京国際フォーラム G509会議室

検討内容 ・委員の構成と委員長の選出

・平成16年度閉鎖性海域環境情報システム構築と推進方策について

・平成16年度の閉鎖性海域環境情報システムの利用状況について

・その他

b 第2回委員会

開催年月日 平成17年2月10日(木)

開催場所 東京国際フォーラム G609会議室

検討内容 ・第1回委員会での指摘事項について
・平成16年度閉鎖性海域環境情報整備等事業の進捗報告及び平成17年度閉鎖性海域環境情報整備等事業の整備予定海域について
・その他

情報整備海域の状況

平成14年度	平成15年度	平成16年度
チェサピーク湾	北海	メキシコ湾
バルト海	黒海	サンフランシスコ湾
瀬戸内海	地中海	ペルシャ湾
タイ湾	渤海	黄海

今後の整備予定海域

紅海、ハドソン湾、ピュージェット湾、カリブ海、カリフォルニア湾、東シナ海、南シナ海、日本海、ベンガル湾

イ 情報収集・提供システムの運営

世界の閉鎖性海域の環境の保全と適正な利用に関する情報を収集、加工するとともに、インターネットを通じて情報の提供・交流を行うシステムの運用、管理の充実を図った。

ウ 「誰でも参加 - 海のネット会議」の管理・運用

平成12年度に環境事業団地球環境基金の助成を受けて構築した「誰でも参加 - 海のネット会議」の管理・運用を行った。このシステムは、(財)国際エメックスセンターのホームページを活用した掲示板であり、このネット会議を通じて多様なセクターの関係者が、閉鎖性海域の環境保全・創造に関する意見・情報の交換を可能とするため構築されたものである。

エ エメックスニュースの発行

閉鎖性海域に関する情報提供等のため「エメックスニュース」を発行しており、平成16年度は、第7回エメックス会議の開催についてPRするため、同会議の第1回アナウンスメントをニュースとして発行、配付した。

(3) 普及啓発・人材育成事業

ア 尼崎海域における実践環境教育プログラムの推進(日本財団助成事業)

環境技術開発等推進事業(実用化研究開発課題) - 閉鎖性海域における最適環境修復技術のパッケージ化プロジェクト - で造成した人工干潟・人工磯等を活用して、阪神間の小中学生等を対象にした環境教育プログラムを、実践的な環境教育活動として実施した。実施にあたっては、環境教育DVD「きれいな海をとりもどそう」ほか環境教育資材の整備を行い、プログラムでは、「海を知る」、「海を見る」、「海を調べる」という視点のもと、海の浄化能力などの機能、大阪湾・尼崎港の現状、実証実験の目的と状況、海の水質調査、海の生物調査、日常生活と海の汚染との関係などを学ぶとともに、尼崎港をはじめとした海の環境を改善するため何をすれば良いかなどを考える機会とした。

実施時期 平成16年5月から平成17年3月まで

実施場所 尼崎港内の実証実験施設及び武庫川下流浄化センター会議室

実施回数 17回

参加者数 339名

主なプログラム内容

- ・環境教育DVD「きれいな海をとりもどそう」の放映
- ・デジタル顕微鏡を使用した尼崎港内の海水中のプランクトンの観察
- ・アサリを使った簡易海水浄化実験
- ・水質測定
- ・実証試験施設の人工干潟等で捕獲された生物の観察
- ・パネル展示
- ・カイワレ大根を使用した発育実験
- ・ワカメの生育実験（11月～3月）
- ・その他

イ 閉鎖性海域の水環境管理技術研修（国際協力機構（JICA）委託事業）

我が国の閉鎖性海域の環境保全施策実施の経験を基に、開発途上国の中堅行政官を対象とした「閉鎖性海域水環境管理技術研修」を実施した。

研修の目的

閉鎖性海域及び沿岸域の環境管理に従事する開発途上国の中堅行政担当官等を対象に、我が国の水質保全など閉鎖性海域等の環境管理に関する経験とその技術の移転を通じ、各国行政担当官等のレベルアップを図り、今後各国において閉鎖性海域等の環境管理分野における指導的役割を担う人材の育成を目的とした。

研修期間

平成16年8月16日（月）から10月29日（金）まで（ただし、最初の3週間は日本語研修等）

研修リーダー

京都大学大学院工学研究科環境工学専攻 津野 洋教授

研修生

ブラジル、中華人民共和国、コートジボワール、インドネシア、パキスタン、サウジアラビア、タイの7カ国、計7名

主な研修場所

JICA兵庫国際センター

研修の内容

- a 講義 環境管理、水質に係る基礎理論の講義
 - b 実習 排水処理・分析技術等の実習
 - c 現地見学 環境に関する研究所や漁業関係施設、排水処理施設、環境教育現場等の見学
- 研修生一覧

名前	出身国	年齢	性別	所属
ホアオ・タデウ・デ・メネゼス	ブラジル	33	男	イタジャイ谷大学地球海域科学技術センター
リュウ・ジン	中国	34	男	国家環境保護局山東省環境保護支所青島環境監視センター
ドラマネ・アルファ・サノゴ	コートジボワール	30	男	環境省海洋環境部
トュリヤワン・アルディ	インドネシア	36	男	環境省人工沿岸・環境室
ザヒドゥラ・カーン	パキスタン	39	男	北西辺境州灌漑電力部
モハメッド・スレイマン・アルロミ	サウジアラビア	37	男	塩水保護事業団研究開発部環境・海洋課
ワンペン・トゥアンウエチャヤン	タイ	33	女	天然資源環境省公害防止部水環境管理局海洋環境課

（参考）研修生合計（平成2年度～平成16年度） 27カ国 102名
（社団法人瀬戸内海環境保全協会の実施分を含む）

ウ 海・川・森の環境教育プログラムの開発（兵庫県教育委員会委託）

学校における「海と川と森の環境教育」の推進を図るため、児童・生徒の発達特性に柔軟に対応するプログラムを開発することを目的として、「海・川・森の環境教育プログラム開発委員会」を設置して、自然と人とのかかわりを考え実践するプログラムの開発やそれらを実施する際に必要な教材等のあり方について検討を行った。この検討結果に基づき、「海・川・森の環境教育プログラム」を作成し、兵庫県下の小中学校等へ提供した。

海・川・森の環境教育プログラム開発委員会

委員会委員

委員長	戸田 耿介	NPO法人子ども環境活動支援協会専務理事
委員	足立 勲	人と自然の博物館
委員	植田 一	加古川市立加古川小学校教諭
委員	中川 勇二	財団法人ひょうご環境創造協会主任
委員	横山 一郎	兵庫県教育委員会事務局義務教育課指導主事

委員会開催状況

a 第1回委員会

日時	平成16年10月14日（木）
議題	・委員の構成と委員長の選出 ・海・川・森の環境教育プログラムの開発の目的について ・海・川・森の環境教育プログラムの開発の内容について

b 第2回委員会

日時	平成17年3月24日（木）
議題	・環境教育プログラムの内容の確認について

「海・川・森の環境教育プログラム」の概要

学習指導要領と本プログラムの位置付け

「海・川・森」環境教育プログラム

- ・海の環境教育プログラム（11プログラム）
- ・川の環境教育プログラム（12プログラム）
- ・森の環境教育プログラム（8プログラム）
- ・共通の環境教育プログラム（9プログラム）

資料集

エ 体験的環境学習推進事業（環境教育ミニフォーラム等）（相生市委託）

環境都市宣言を行った相生市は、「海がきらめく夢と希望あふれるまち」をテーマに市民、産業、行政等による新たなまちづくりをめざした活動を行っている。相生市の活性化には、子ども達がふるさとについて認識を深めることが必要であるため、相生市は、平成16年度環境省の支援を受け、市の特徴である海を背景に、「相生湾を愛し、守り、育む」をテーマとした体験的環境学習事業を実施した。当センターでは、相生市委託を受け、子どもたちが体験活動等について発表する環境教育ミニフォーラムを開催するとともに、今後の環境学習を推進するための資料として、これらの体験活動の記録集の作成を行った。

相生市環境教育ミニフォーラムの開催

開催年月日	平成17年2月19日（土）
開催場所	相生市民会館 中ホール
参加者数	約250名
内容	・講演：熊谷 哲（兵庫県立大学人間環境学部教授）

- ・発表：相生市立相生小学校児童
相生市立中央小学校児童
宍粟郡一宮町立神戸小学校児童
相生こどもエコクラブ
坪根子ども会有志
B & G あいおい海洋クラブ

体験活動記録集の概要

背景と目的

実施にあたって

実施内容

- ・海の水質調査
- ・カヤックで磯観察
- ・漁業体験と漁師さんとの交流
- ・海辺の生物観察
- ・ビーチコーミング（海辺の宝探し）
- ・交流事業 海・川・森の環境
- ・環境教育ミニフォーラム

評価と今後の課題

オ 環境イベントへの出展等

エメックス活動の普及啓発と閉鎖性海域の環境情報の発信のため、環境イベント等にパネル等の出展等を行った。

「国際フロンティア産業メッセ2004」・「ひょうごエコタウンメッセ（エコプロダクツ展）」

開催年月日 平成16年10月14日（木）～15日（金）

開催場所 神戸市 神戸国際展示場2号館

H A T神戸国際フェスティバル・パネル展

開催年月日 平成16年7月6日（火）～24日（土）

開催場所 神戸市 ひょうご国際プラザ